

委員会活動

総務常任委員会

◆7月13日
市行財政改革等について、委員全員が出席し、執行部は総務部長以下、担当課長・主幹に出席を求め、第3回総務常任委員会を開催しました。その概要を報告します。

- 1 行財政改革**
- ①出張所・連絡所の廃止
最終年度、場所について
 - ②使用料・手数料の見直しについて



▲ 高田出張所

- ③教育委員会が使用しているJA中町支店の今後の見直しについて
 - ④大柿合同庁舎の具体的な利用方法について
 - ⑤統廃合した学校等の跡地利用について
- 2 委託契約**
- ①平成18年度委託業務について
- 以上6項目について担当者より説明があり、委員からは活発な質問がありました。

◆8月25日

江田島市の文教厚生行政について、福祉保健部並びに教育委員会に出席を求め、委員会を開催しました。その概要を報告します。

〔保育園運営検討委員会〕

Q 保育士の配置と臨時保育士の状況は。
A 全保育士の内、臨時保育士は現在20数人です。保育士全体の配置数は、国の基準以上です。保護者からのアンケートを実施するなど、ニーズに対応しています。今後も周知を含め、募集を継続します。

Q 保育士からもアンケート調査を募り、運営に活かしてはどうか。そして、働きやすい職場づくり。
A また、合併後、地域との連携が薄れてきたのでは。
Q 三世交代等やイベント、また、防犯についても地域の各種団体

文教厚生常任委員会

と関係を深め連携していく。

Q 施設の老朽化が進んでいるが。
A 耐震等も含め、今後の検討課題です。

Q 保育関係予算の内、国庫市の割合は。
A 平成15年度の負担割合は、補助金が1億5千万円でしたが、平成16年度からは総予算額約6億円の内の5億円が市の負担です。

Q 民営化の場合どうか。
A 3/4の4億5千万円が補助金で、残り1/4の1億5千万円の負担ですみません。

Q 教育行政施策の進捗状況と学校統廃合の課題は
〔教育長説明〕
中学生200人が職場体験学習をした。体育面では、能美中 中西君がハードル部門で全国第3位、江田島中 才野さんが100m走で中国大会第7位。文化面では、吹奏楽で、江田島中・能美中が金賞、



▲ 大君保育園

大柿中が銀賞。NHKの書道コンクールに柿浦・鹿川・小用・沖の各小学校が出場するなど、体育・文化に良い成績を上げています。

Q 中学生の学力のレベルは。
A 全国平均より上ですが、昨年、社会科が下がりました。英語は平均点です。この2教科が課題です。

Q 平成17年度の公立高校への進学率は。
A 悪くありませんでしたが、生徒数の多い

Q 江田島中の改築事業と切申中との統廃合は。
A 江田島中は、平成20年の2学期から新校舎で授業を開始し、平成21年4月に切申中と統合予定です。関係各位と十分な協議を重ね、ご理解いただくよう努めています。

産業建設常任委員会

◆8月7日

江田島市における本年度の梅雨災害等の状況と今後の方針並びに小用港の埋立等の進捗状況について、産業部長、土木建築部長及び関係課長が説明。

〔梅雨災害等の状況と今後の方針について〕

初めに、産業部（農林水産関係）から被害個所は11カ所、被害総額は1,859万4千円、被害の多かったのは能美町の5カ所、1,270万円等の説明があり、続いて、土木建築部（公共土木関係）から被害個所は32カ所、被害総額は4,013万6千円。被害の多かったのは沖美町の10カ所、被害総額の多かったのは能美町の2,633万2千円、幸い人・人家の被害はなかった等の説明を受けました。

その後、各委員から質問等が多数ありましたが

主なものは。

Q 最近工事が完了した所が崩れているが事前調査（パトロール）が必要だったのでは。
A パトロールを強化し、危険な個所・罹災個所等を出来るだけ調査したい。

Q この度の災害で被害金額が一番多いのは、能美町高田二谷（市道能美西一号线と説明があったが台風時期の対策はどうか。
A 土嚢を積んでせき止め、応急対策をしています。

Q 小用港の埋立等の進捗状況について
A 土木建築部から、平成18年度は、ターミナルの建築とロータリー部分の整備等を行い、来年春季にオープン予定とあります。

なお、利用者等には迷惑をかけないように、掲示板等により周知しますと

説明。その後、各委員から質問等が多数ありましたが主なものは。

企業会計特別委員会

◆8月25日

市企業局長と2名の企業局次長に出席を求め、先に竹原市の竹原波方間自動車航送船組合（中四国フェリー）と松山市の中島汽船株式会社に視察研修した成果と市交通船事業の今後について協議した。

Q 燃料代の高騰を踏まえ、今後の市交通船事業のあり方は？
A え、今後の市交通船事業のあり方は？

Q 燃料代の高騰等により平成17年度約1億円の赤字でした。本年の6月に料金改定をしまし



▲ 改修工事が進む小用港

▼ 公営船による通勤・通学風景



たが、住民が減り利用者が減少しつつあり厳しい状況。
平成17年度末の累積赤字は約1億余り。4月以降更に燃料代が上昇しており、平成18年度は燃料高騰分を合わせ単年度約1億5千万円の赤字が見込まれる。

Q 経営分析が必要。高い給与を支給している理由の一つと考える。改善はできないか。
A 市の船員の給与・諸手当は民間の船員と

Q 必要なものはないか。
A 公営の交通船として、生き残るためにはどのような改善が必要か、精査する必要がある。

Q 予備船を他社と共有できないか。
A 他社はフェリーの予備船は持っています。高速艇の予備は持っていないため共有は難しいと思う。

比が高いと思う。民間会社では別会社を設立し給与を下げた実例があります。